

ワクチン情報文書

肺炎球菌結合型ワクチン： 知っておくべきこと

1. ワクチン接種を受ける理由は？

肺炎球菌結合型ワクチンは肺炎球菌感染症を予防することができます。

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌による病気のことです。これらの細菌は、以下のようなさまざまな病気を引き起こす可能性があります。

- ・肺炎（肺の感染症）
- ・耳の感染症
- ・副鼻腔感染
- ・髄膜炎（脳と脊髄を覆う組織の感染症）
- ・菌血症（血流感染）

肺炎球菌感染症は誰にでも発症する可能性がありますが、特に幼児、高齢者、そして特定の危険因子を有する人が最も高いリスクにさらされています。

ほとんどの肺炎球菌感染症は軽度です。しかし、脳の損傷や難聴などの長期的な問題を引き起こす場合もあります。肺炎球菌感染症による髄膜炎、菌血症、肺炎は死に至ることもあります。

2. 肺炎球菌結合型ワクチン

肺炎球菌結合型ワクチンは、肺炎球菌感染症を引き起こす細菌の予防に役立ちます。肺炎球菌結合型ワクチン(PCV)には、いくつかの種類があります。推奨される特定のPCVと接種回数は、年齢、ワクチン接種歴、医学的状態に基づきます。担当の医療従事者が、どの種類のPCVを何回接種すべきかを判断するお手伝いをします。

- ・**乳児と幼児**は通常、PCVを4回接種する必要があります。これらの接種は、生後2、4、6、12～15カ月時に推奨されています。
- ・**乳児期または幼少期に推奨される接種量を接種しなかった一部の年長児や思春期の子ども**は、PCVの接種が必要です。これは、年齢や病状、またはその他の危険因子によって異なります。
- ・PCVを接種しておらず、特定の医学的状態またはその他の危険因子がある**19～49歳の成人**

は、PCVを接種する必要があります。このグループの一部の成人は、すでにPCVを接種済みであっても、追加の接種を推奨される場合があります。

- ・PCVワクチンの接種歴のない**50歳以上の成人**は、PCVワクチンを接種する必要があります。このグループの一部の成人は、すでにPCVを接種済みであっても、追加の接種を推奨される場合があります。

3. 担当の医療従事者にご相談ください

以下のような方がワクチンを受ける場合には、ワクチン接種を担当する医療従事者にご相談ください。

- ・何らかの種類のPCVの接種後にアレルギー反応を起こしたことがある、またはジフテリアトキソイド(DTaPなど)を含有するワクチンにアレルギー反応を起こしたことがある、または生命を脅かす重度のアレルギーがある

場合によっては、担当の医療従事者がPCVの接種を次回の来院まで延期するように判断する場合があります。

風邪などの軽い病気にかかっていても、ワクチン接種を受けることができます。中程度または重度の病気に罹患している場合は、回復するまで待つ必要があります。

詳しい情報については、担当の医療従事者にお尋ねください。

Many vaccine information statements are available in Japanese and other languages. See www.immunize.org/vis

多くのワクチン情報の説明が、日本語やその他の言語で利用することができます。www.immunize.org/visを見てください。



U.S. CENTERS FOR DISEASE
CONTROL AND PREVENTION

4. ワクチン反応のリスク

- 肺炎球菌結合型ワクチンの接種後に、注射部位の赤み、腫れ、痛み、圧痛、発熱、食欲不振、不機嫌(イライラ)、疲労感、頭痛、筋肉痛、関節痛、悪寒が起こることがあります。

幼児では、PCVを不活化インフルエンザワクチンと一緒に接種した場合、発熱によるけいれんのリスクが高まる可能性があります。詳細については、担当の医療従事者にお尋ねください。

ワクチン接種を含め、医学的な処置により失神する方もいます。目まいや視力の変化、耳鳴りなどを感じたら、担当医療従事者にお伝えください。

どんな医薬品でもそうであるように、ワクチン接種により重度のアレルギー反応や、その他の重篤な傷害や死亡が起こる可能性はごくわずかにあります。

5. 重度の問題が起きたら？

アレルギー反応は、ワクチン接種を受けたクリニックからの帰宅時に生じることがあります。重度のアレルギー反応の症状(蕁麻疹、顔やのどの腫れ、息苦しさ、速い鼓動、目まい、倦怠感)がみられた場合は、9-1-1に電話し、お近くの病院を受診してください。

気にかかる他の症状がある場合は、担当の医療従事者にお電話ください。

有害反応は、Vaccine Adverse Event Reporting System(ワクチン有害事象報告システム:VAERS)に報告する必要があります。通常、担当の医療従事者がこの報告書を提出しますが、あなたもご自身で提出することができます。VAERSのウェブサイト(www.vaers.hhs.gov)にアクセスいただくか、1-800-822-7967までお電話ください。VAERSは反応の報告のみを目的としているため、VAERSのスタッフは医学的な助言は行いません。

6. National Vaccine Injury Compensation Program

National Vaccine Injury Compensation Program(全米予防接種傷害補償プログラム:VICP)は連邦プログラムであり、特定のワクチン接種により傷害を受けた可能性のある方々に補償するため設立されました。ワクチン接種による傷害または死亡の疑いに関する補償請求には提出期限があり、2年という短期間の場合があります。VICPのウェブサイトwww.hrsa.gov/vaccinecompensationをご覧になるか、1-800-338-2382までお電話いただき、プログラムの詳細および補償請求の方法についてご相談ください。

7. 詳しい情報を知るには？

- 担当の医療従事者にお尋ねください。
- お住まいの地域または州の保健局にお電話ください。
- ワクチンの添付文書および追加情報については、Food and Drug Administration(米国食品医薬品局:FDA)のウェブサイトwww.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccinesをご覧ください。
- Centers for Disease Control and Prevention(疾病管理予防センター:CDC)にお問い合わせください。
 - 電話1-800-232-4636(1-800-CDC-INFO)または
 - CDCのウェブサイトwww.cdc.gov/vaccinesをご覧ください。

